風土会　　会　報（2009年６月）No.14

♪　♪　♪　♪　♪　♪　♪　♪　♪　　文責　　柴田　悦子

第 14 回学習会を，平成 21 年 6 月 26 日（金）19：00 ～ 20：00 福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第 14 回目の内容
講師　重枝一郎先生（千代中学校教諭）
1　学級の荒れを防ぐポイント
2　実践ビデオ紹介
3　エクササイズの体験活動

1　学級の荒れを防ぐポイント

荒れ予防のルールづくり

①安心力が必要になってきた

	1 学期	2 学期	3 学期
ビジョン	規律（ルール）づくり	活性化された授業づくり	文化づくり
荒れ	今は，ここで荒れがくる	昔はここで，荒れが見えた	

どんどん生徒に委任していく。最終的なビジョンは**「自立」**

（リスク）：教師が一方的にしつけようとしても通用しない

２大ルール
「おとなしく座っていること」
「話を黙って聞くこと」　　（いわゆるしめること）

②理由をつけてルールをつくる
今の生徒・・・・・

・以前は教師が「注意」をくり返せば，それが自動的にルールになっていたが，今はそのやりとりが，折り合いをつけることになって，ルールがあいまいになってくる。
・荒れの根っこには，リレーションの感覚の欠如がある。
・「しっかり」「ちゃんと」などの以心伝心が苦手。

だから

①なぜ，そのようなルールが必要であるか説明。　**（定義し，磨きをかける）**
②２大ルールは必要に応じて限定的に使う。ケースごとに理由を明示して使う。
（自分のしたい状態にもっていく，タイミングという武器。）
③まずは，最小限のルールを伝えて，リレーションづくりが必要。その後，親しさ感覚だけだと互いが互いに侵害する傾向が出てくる。そこで，本格的なルールづくりに入る。
（技術の基礎は見て盗む。その上で自分らしいひねりを加える。）

解　説

「学級の荒れを防ぐポイント」

○今の生徒を理解しよう

昔の生徒とは違ってきている「今の生徒」に必要なのは，「安心感」である。それは，人間関係の欠如の感覚があるからであり，昔とはもともとのスタートラインが違ってきているのである。

昔の学級の荒れは，中だるみのようなもので，もっと遅い時期に表れていた。基本的には，先生の話はある程度聞くし，強い口調で言えば，それが自然に学級のルールになっていた。そういう先生のオーラが暗黙の両解を得ていた。

しかし，今の生徒は，５月，６月に荒れがくる。教師がしめるのはリスクがある。注意をすると生徒は「何で？」という言い方をする。そのやり取りの中で，折り合いをつけることになる。以心伝心のことばの受け取り方が，今の生徒は苦手である。

○今の時代にあった方法を取り入れよう

小学校の先生は，具体的な指示をする。例えば，「手を挙げなさい」という時に，「天井につきさすように」という具体的な指示である。中学校の先生は，そういうのに抵抗がある。しかし，今はいろいろな生徒がいる。根本的なことを考える必要がある。小学校の先生のやり方も参考にしながら，混ぜたりアレンジしたりと，工夫するとよい。

自分は（重枝先生）２２年間の教師生活の中で，今が最大にいい。（福岡市でも困難校といわれる千代中学校に在籍しているにも関わらず！）それは，自分で勉強して，考えて，やってみたから。１に実践，２に実践，３に実践をしながら，自分も変容し，生徒達の変容も実感できた。

教師は，生徒がすぐに変容することを求める。でも，それは期待できなくても，やる。実践する。そうすると，変容する。

この風土会（学習会）では，最初の頃に，根本的なエクササイズを中心に紹介した。２人１組のエクササイズである。その後だんだんと，中集団でのグループワークトレーニングを行ってきたが，小集団のエクササイズの方がやりにくいし，難しい。それは，教師に理論がないと，生徒がついてこないからである。しかし，学級でも，まずは小集団でのエクササイズに取り組むことが肝心である。

○教師の指導技術を向上させよう

ポイントは　「定義し，磨きをかける力」
「自分のしたい状態にもっていく，タイミングという武器」
「技術の基礎は見て盗む，その上で自分らしいひねりを加える」

「定義し，磨きをかける力」

例えば，道徳の定義を「人のためにもなり，自分のためにもなる」と自分なりに定義づける。頭の良い人の定義であれば，「関連づけることのできる人が頭の良い人」といったように，自分なりに勉強したり，本を読んだり，根拠をみつけながら，定義づけを行う。いろんな言い方や伝え方をもてるように，教師が磨きをかけていくと，生徒にも伝わるようになる。ただ，ずっと言い続けるだけでは，生徒に刺激として入ってこなくなる。限定的に，ケースごとに，使い分けることも大切である。伝える説得力のあることばをもつことと，それをどう伝えるかという二つを同時に磨いていくとよい。

「自分のしたい状態にもっていく，タイミングという武器」

生徒を，教師がこうしたいという状態にもっていくには，タイミングとセンスがいる。すぐ生徒が変わらないと気に入らないというスタンスでは，きつい。ゆとりや余裕をもちたい。ずっと

自分のやり方を変えずに，そのやり方でやるんですか？と自分に問うことも必要。柔軟に自分を変化させると，教師人生が楽しくなる。

黄金の３日間といわれる，始業式や入学式からの３日間は大きなチャンスである。ここで，夢やビジョンを語ることは，ものすごく大切なことである。次に再チャレンジという発想。集団は，教師が適切な刺激を与えながら育てようという意識がなければ，退行していくものである。だから，タイミングを逃さずに，クラスを仕切り直す。「このクラスをこうしたい。これは許さない。」という教師の思いを最小限に伝えて，あとはリレーションづくりを行う。学級が荒れるのは，リレーションの欠如が原因である。しかし，リレーションづくりばかりをしていたら，今度は互いに互いが侵害しだす。１年間，リレーションづくりだけをやっていたら，親しくはなるけれど，自己主張が強くなる。それも，相手のことを考えない自己主張がぶつかり，侵害傾向がでてくる。特に，３ヶ月後の６月頃に，その傾向が明らかになっていく。生徒同士の力関係の中で，強い者，弱い者というように，ひずみが出てくる。だからこそ，このタイミングで，本格的なルールづくり（再契約）をする必要がある。生徒が，その必要性や理由を理解しながら，自分たちのルールをつくるのである。そのような活動を教師が仕組み，生徒達の規範意識を高め，安心できる学級づくりを行うのである。

「技術の基礎は見て盗む，その上で自分らしいひねりを加える」

若い教師もベテランも，お互いに切磋琢磨するような環境や感覚が大切である。いいと思ったら，見て盗めばいいが，そこに自分らしいひねりを加えたい。そうしないと，生徒に伝わらない。語弊があっては困るが，セオリー通りにやるだけではなく，はみ出すことを学ぶということが，自分らしいひねりを生むことにつながる。ちょっとはみだすと，生徒はそこに人間味を感じる。その人間味に生徒は惹きつけられるのである。何に惹きつけられるかというと，教師の人間的な魅力にである。教師のクオリティとは，あるクオリティは生まれつきのものであり，あるクオリティはトレーニングで身につけられるものであり，また，あるクオリティは時と共に育まれていくものである。生徒は本能的に，教師のクオリティを見抜いている。だからこそ，教師のクオリティを磨いていきたい。

２　実践ビデオ紹介

再契約法「ビーイング」（班のルールとマナーづくり）

☆ねらい

○安心して学習できる班のルールとマナーに気づき，班内で再契約する。
○お互い協力し合う雰囲気をつくる。

☆授業の流れ（展開）

生徒の活動と内容	指導上の留意点
１　はっきりとしたねらいを確認する。 学習できる班のルールとマナー ○ウォーミングアップ 「イメージボードゲーム」 ○振り返る	・以前のビーイングシートを振り返り，侵害傾向が発生してきていることに気づかせる。 ・ルールに工夫を加える。（早く，長く，不規則，邪魔の声，黙想） ・日常の授業，友だちとのアサーションスキルとの関連性に気づかせる。
２　注意事項を聴き，課題に取り組む。 『ビーイング』 ○個人でビーイングシートをつくる	・責任感をもって考えているかを観察する。

○班内で発表しながら，ひとつひとつの意見に理由をつける ○班で共通理解を図る ○班で共通実践として，清書する ○キャッチフレーズ的な目標を決め，終わったら知らせる	・ルールが守られているか確認する。 ・グループの働き，個人の動きを観察する。 ・できたら班で声を合わせて「できたぁ」 ・観察しながら後での評価を用意する。
3　ふりかえりをし，まとめる。 ○いい聴き方のポイントを発表する うなずく，返事する，同意する， 質問する，確認する，相手の目を見る 体を向ける，関連づけて聴く 先入観をもたない，相手の立場に立って聴く，最後まで聴く	・ルールを守ってエクササイズを行っていたかを評価する。人の発表を聴くときのマナーもこの授業のエクササイズにつながっていることに気づかせる。
○各班の発表を聴く	・再契約であることを確認し，これからの日常の中で評価していくことを知らせる。

《ビデオの解説》

○「ビーイング」（班のルールとマナーづくり）

千代中学校３年生の学活の様子をビデオで見ました。内容は，上記に示した通りです。

まず，授業開始のあいさつの声が小さくて，やり直しをしてからスタートです。授業中は常に，班形態にして，グループ学習をしています。この年代は，友だちが一番だと思っています。大人からほめられても，たいした刺激にはなりません。横のつながりが大事なのです。

「ビーイング」は４月にこの風土会で紹介しましたが，学級目標づくりの活動です。

個人のワークシートを用意して，人の絵の内側に「安心できる楽しいクラスをつくるために自分にできること」を書きます。外側には「こんなことをされると嫌だ」という逆のことを書きます。個人で書き終えたら，班でリレーションを行い，大きなワークシートに班で 1 枚書かせます。この時点で，クラスでのルールが『承認され契約が結ばれた』ことになるのです。それを，みんなに発表し，教室掲示します。この活動を４月に行っていたのですが，クラスのルールが守れていない現状を問題提起し，再契約を結ぶ活動を６月に仕組んでいます。その６月の授業をビデオで見ました。

○「ビーイング」再契約の導入場面

やり方はいろいろあるのでしょうが，重枝先生の場合は，意識的にかなり強い刺激を入れています。教室掲示していた，班で書いたワークシートをはがして，実際に現在，ここに書いてあることが守れているのかどうかを生徒に問うています。何ができていて，できていないかをすべて，チェックさせています。班長を中心に振り返りをさせて，この授業のねらいをはっきりさせています。最初の契約は大失敗。これを生かして，再契約をするというねらいです。

実は生徒も教師と同じ事を感じているのです。生徒から「今のクラスの状態は，人間関係はできているけれど，規律が守れていない」という発言が出ました。それをうけて，重枝先生は黒板に大きく「失敗」と書きました。次に語りです。「自分に自分で命令しないと，本当のやる気がでないでしょう。気持ちよく動くには，どうすればいいのか。先生の命令で動いても，生徒は評価されません。先生がほめられる。先生が生徒に守らせた，になります。それでは達成感がないでしょう。自分たちが評価されるのはただひとつ。自分で自分に命令すること。そしてできたときにものすごく大きな喜びが得られる。先生がいるかいないかわからないようになれ。それが，自律であり自立です。」

先生の長い長い語りを聴いているうちに，生徒はしっかりゾーン（集中）に入っています。それを確認して，次の活動に移ります。

○「イメージボードゲーム」（ｳｫｰﾐﾝｸﾞｱｯﾌﾟ）

日常の授業や，友だちとのアサーションスキルとの関連性に気づかせることがねらいです。意図的に，ルールに工夫を加えます。

まず，１試合目です。えんぴつを持たずに，手をひざに置いて，目だけで下記のボードを見て，答えを出します。Ｓ（スタート）に白と黒の碁石があるとイメージして，先生の指示を聞くだけで，それぞれがどう動いたかを考えます。

1

S			

2

S			

3

S			

4

S			

先生の指示がでます。「白，右に２。黒，下に１。白，下に１。黒，右に１。白，左に２。黒，下に２。白，上に１。黒，左に１。白，右に３。黒，上に１。」約３０秒くらいですが，答え合わせをすると，ほぼ全員ができていました。「すごいね。」と先生の評価が入ります。「きちんとゾーンに入って（集中して）聴いていれば，理解ができるっていうことだよね。」「それでは，徐々にみんなの授業中の状態に近づけるぞ。」と言って２試合目の指示が出ます。

２試合目。目をつぶってプリントを裏向けて，さっきと同じようにイメージボードゲームをします。これは，授業中に眠っている状態だと説明されます。答え合わせをすると，さっきとはうって変わって，できた人がぐんと減りました。「残念！授業中，目をつぶってたらダメだということだよな。寝たらだめだよな。まず，相手に対して，授業をしている先生に対しても失礼なことなんだ。」

そして，３試合目です。ルールは２試合目と同じですが，大きな仕掛けがあります。「白，右に２。黒，下に２。白，下に１。・・・・」すると当然，「今日の給食，何やろう？ごはん？」と重枝先生がつぶやきます。生徒から思わず，「忘れる・・・」とつぶやく声。続いて，机が倒れる大きな音をたてます。「あっ，ごめんごめん。」何事もなかったかのように重枝先生は続けます。「黒，右に１。白，下に２・・・」「できた人？」「わからん」という声が，思わず生徒から出ます。もちろん，できた人はいません。

違う話題が出たり，大きな音がした途端，生徒の記憶がとんでいるのです。これが授業中ならどうかを生徒に突き付けます。「これが，このクラスの授業中なんじゃないか？」せっかくゾーンに入っていても（集中していても），私語や雑音が入ると，その集中がきれてしまうことを実感させます。自分のためにも，人のためにもなっていないことを体感させます。

ラストゲームの４試合目です。２試合目と同じルールで，落ち着いた雰囲気でゲーム終了。全員が正解して，気持ちよく終わりましたが，ここからの振り返りが非常に重要です。

重枝先生は，こんな風に生徒に語りかけています。「３試合目と４試合目の違いで何か気づきましたか。３試合目はある意味，悪い状態。みんなの授業に置き換えてみると，誰かがおしゃべりをした，誰かが音をたてた，誰かが笑った，その瞬間にゾーンがきれる。これは，個人の問題なのかな？確かに個人の心構えの問題もあるかもしれない。だけど，環境の問題もある。先生達は，授業中にわかりやすく説明している。みんながどこにつまずきそうかも予想しながら，わかるように説明している。それが，授業。みんながきちんと環境を整えてくれれば，全員正解できる。全員できるのに，そのチャンスを自分たちから失っている。」説得力のある語りに，生徒は全員が惹きつけられています。

○「イメージボードゲーム」を行う意義

この活動は，元々は，脳を活性化するゲームです。それを重枝先生がアレンジして，今回のような活動を仕組んでいます。クラスにルールを浸透させるための，体験的な活動です。授業規律に関連させています。

しかし，このような活動を１回入れたからといって，すぐに日常化されるかというと，そんなに簡単なことではありません。しかし，こういう話や体験をさせておけば，タイミング良く注意をすると，生徒は「あっ」という表情で，素直に聞き入れることができます。

今回の活動は，ひとつの例です。それぞれの先生方が，目の前の生徒の実態に合わせて，ひねりを加えた取り組みをすることが，とても大切だと思います。本を読んで，実践例をみつけてもいいですし，他の先生方の取り組みを参考にしてもいいのです。そこに，ほんの少しのアイデアとオリジナリティーが加わると，説得力が増す取り組みになると思いました。

3　エクササイズの体験活動

演習　「何ができるの」

《ねらい》

○「聴く」ことは状況把握の重要手段であることに気づく。
○伝える側の「正しく伝えたはず」という思いこみに気づく。

《準備》

・図形パズル（８種類３セット）・筆記用具・振り返り用紙（各自１枚）

進め方

1　二人一組になり，受ける人・伝える人がお互い前を向いて，縦の配置になるようにする。
2　パズルと完成図を配布する。
3　ルールを確認する。
　・伝える人：言葉だけ，完成の形を言ってはだめ，相手のしていることを見てはだめ。
　・受ける人：勝手に組み立てない，質問できない，「はい」か「いいえ」しか言えない。
4　エクササイズ・できたら知らせる。
5　正解発表
6　振り返りシートに記入する。
7　いい聴き方のポイントを発表する。
　うなずく・返事する・同意する・質問する・確認する・相手の目を見る・体を向ける・関連づけて聴く・先入観をもたない・相手の立場に立って聴く・最後まで聴く

《体験活動の解説》

○デモンストレーション

参加された先生の中から，重枝先生に指名されて，田中先生と植木先生が代表として，デモンストレーションを行って下さいました。（ご協力，ありがとうございました！）

田中先生が伝える側，植木先生が受ける側になって，活動開始です。同じ方向を向いて，縦一列に並びます。受ける側の植木先生が前です。パズルのピースを持っています。田中先生の説明を聞いて，パズルを完成させるのですが，植木先生は，「はい」と「いいえ」しか言えません。質問することもできません。田中先生は，植木先生がどんな風にパズルのピースを組み合わせているのかを見ることができません。だから，どう説明すれば相手に伝わるのか，半信半疑で説明しなくてはなりません。植木先生も，田中先生の説明を聞いてよくわからなくても，「もう１回言ってください。」とも言えず，「はい」か「いいえ」しか言えません。だから，「わからないからもう１回説明して」と伝えているかのような「いいえ」という言葉が，何度もくり返されながら，やりとりが行われていました。かなり難しそうです。

○体験した感想

田中先生・植木先生のペアは，そのまま活動を続けたままで，他の先生方も同じように活動を体験しました。実際に体験すると，想像以上に難しく，相手になかなか伝わりません。相手の様子が見えないことで，こんなにも伝わりにくくなるものかと，非常にもどかしい気持ちになりま

した。伝える方もかなりのストレスですが，受ける方も，「はい」と「いいえ」しか言えないので，もどかしい気持ちは同じです。ちょっと質問できれば，わかりそうなのにと，思わずルールを破って，質問しそうになります。

「伝えるのって，こんなに難しいんだ。」「相手の言葉を聞きとる事って，こんなに難しい事なんだ。」と，大人でも実感できました。

今回のエクササイズは，「背中合わせ・むかえ合わせ」や「ぼくらはジョーズ」に似た活動でした。話の聴き方や伝え方のエクササイズは，機会をとらえて何度でも取り組みたい活動です。バーバルな部分とノンバーバルな部分の両方に気づかせていくことが重要だと思いました。

☆　今回の学習会のキーワード　☆

○安心力
○定義し，磨きをかける力
○自分のしたい状態にもっていく，タイミングという武器
○技術の基礎は見て盗む，その上で自分らしいひねりを加える
○教師のクオリティ
○再契約法
○いい聴き方のポイント
　うなずく・返事する・同意する・質問する・確認する・相手の目を見る・体を向ける
　関連づけて聴く・先入観をもたない・相手の立場に立って聴く・最後まで聴く
○はみ出すことを学ぶ

♪学習会に参加された先生方の感想♪　（参加人数　５０名）

・今日も目から鱗の内容でした。リレーションができてきて，だんだんと親しさは増すんですが，仲良くなった分，言いやすい（主張）環境になっていました。そう思っていたところなので，とても参考になりました。再契約がんばります！
・初めて参加させていただきましたが，とても参考になり，ぜひ次回も参加したいと思います。今まさに，学級が楽しいだけの集団になりつつあり，ルールの再確認が必要であると感じていました。道徳や学活をつかって，自分なりにアレンジしてやってみようと思います。ありがとうございました。
・hyper Ｑ－Ｕとの関連をもっと知りたいです。「荒れの兆しがみられる学級」への対処法として本日のエクササイズが有効だと分かりました。いつか道徳で，自分なりのエッセンスを加えてやってみたいです。
・味のある先生になれるように頑張りたいと強く感じました。荒れ予防のために教師が色々体験し，勉強することが大切だと思いました。体験したことを大切に，色々感じたことを生徒に伝えていきたい。
・自分のクラスにフィードバックしようとすると，重枝先生がおっしゃったようにセオリー通りではなく，何らかのオリジナルが必要で，それを探していかなくてはならないと感じた。ルールづくりがおろそかだと，やはりすべてのエクササイズは成立しないんだなと感じた。
・今日の「何ができるかな？」は伝える難しさ，返事がない不安感など，授業中の教師の気持ちを体験してもらい，ルールづくりをしていくためにも，使えるなと感じた。難しい分，ルールを守れずズルをしてしまう生徒もいるかもしれないが，それもありつつ話をする良い教材として使ってみたい。
・生徒の実態に即した具体的な技術について，大変わかりやすくご指導いただき，ありがとうございました。「こつ」や「ひねり」「味」の出し方にヒントをいただきました。
・ちょうど昨日，自然教室から帰ってきて，１年生の規律に対する意識に問題を感じているところでした。それをふまえ，これから生徒達にどのようにそのことに気づかせ，実践させていくべきか，そのきっかけになる気がします。今日はとても勉強になりました。ありがとうございました。
・今日，はじめて参加させていただきましたが，目から鱗のエクササイズでした。「授業を静かに聞きなさい」この一言を言って聴かせるだけでなく，なぜそうすべきかを生徒が体験を通して分かってもらえるようにする工夫が素晴らしかったです。「時間がない」を言い訳にせず，ねらいをもって実践したいと思います。ありがとうございました。